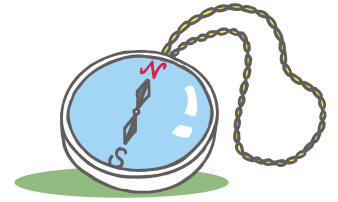


羅 針 盤

第 6 号

令和7年5月19日（月）



◆ 「自主・自立」と「社会貢献」

生徒の皆さんもよく承知している通り、城陽中学校の校訓は、「共に学び、共に生きる」と「時を守り、場を清め、礼を正す」です。（生徒手帳にも記載されています。）日常の教育活動の目指すべき方向性を指し示したものとなっています。中学校での三年間、それは、義務教育の最終段階の三年間であり、生徒の皆さん一人ひとりの人生の中での、大きな分岐点へと向かっていくための力を蓄えるべき大切な三年間でもあるわけです。中学校卒業後の姿を見据えて、自分の進むべき道を自分で決定し、それぞれがそれぞれの道に向かって力強く踏み出していくためのエネルギー、つまりは、学力や体力をしっかりと蓄えておくべき三年間というわけです。小学校を卒業して中学校へ進学、ここまでは誰もが同じようなレールの上を走ってきたわけですが、中学校卒業後は、それぞれが目ざすべき進路といったものに違いがあって当然のこととなるわけです。そのためにも、中学校での三年間を「どのように過ごすか」によって、生徒の皆さん一人ひとりの人生が違っていくとともに、大きく変わっていくものとなるはずです。まずはそのことを自覚したうえで、日々の学校生活をどのように過ごすべきかを考えることから始めるべきではないでしょうか。中学校を巣立ち行くときに、「中学校で学んで良かった」と実感できることを、どれだけたくさん作り出せるかといったことがとても大事なことであると考えます。中学校生活を充実させたものとするためには、まずは、「仲間とともに自ら学ぶ姿勢」といったものが大切です。学校は、集団での学びの場です。たくさんの知識を得て、それを生かして課題を解決する方法を学ぶ場です。それは、決して各教科の授業に限ったことではありません。学校行事や部活動などを通じて、城陽中学校の一員としての自覚が芽生え、様々なことを体験することで人としての成長がなされていくものと考えます。自分さえよければいいと考えたり、受け身で聞いたり体験したりしていても、本当の価値ある学びとはならないでしょう。共に学び続ける仲間とともに、意欲をもって主体的に取り組む結果としての学びにこそ意味があるはずです。そのためには、「正しく判断し行動する」ことが大切なこととなります。自立しているというだけでなく、社会の一員としての正しい判断ができるのか否か、自分勝手なルールで行動するのではなく、社会の一員として、誰もが認めてくれるような人としての判断ができ、行動することができているのかといったことが大事なことです。そして、「社会に貢献する気概を持ち得ていること」が大事なこととなるはずです。現在、生徒の皆さんが受けている義務教育という学習環境は、ごく当然のことのように感じているかもしれませんが、子どもたちにはしっかりとした教育を受けさせてやりたいという、社会を支えてきた先人たちの熱い



思いによって作りだされた仕組みなのです。学校教育を通じて、将来の社会を担うべき人として、そして、地域や社会に貢献できる人として立派に成長してくれるものと信じて、たくさんの人たちが君たち一人ひとりを支援してくれているわけです。社会に貢献しようという思い、「気概」とはそういった地域や社会に向けた強い思いの表れであり、成し遂げようとする決意であったりするべきものであるはずです。中学校の三年間で、「自主・自立」の確立とともに、「社会貢献」できる人として大きく成長してくれることを心より願っています。